



京浜臨海部の未来像とマスタープランに期待すること

マスタープラン改定にご尽力された京浜臨海部活性化協議会会長の松川氏に、今後の展望について伺いました

京浜臨海部の再活性化を目指す

1997年に策定された京浜臨海部再編整備マスタープランが20年ぶりに改定されました。前回のマスタープランは研究開発機能の強化が柱であり、末広町地区への研究開発機能の集積など一定の効果を挙げました。一方、社会情勢が目まぐるしく変化する中で、今後も京浜臨海部を世界の最先端を走り続けるエリアとしていくために、20年後の将来像を見据え、2030年度を目標年次としたプランを掲げました。

特に早期に新たな土地利用が見込まれる「末広町地区」「守屋町・恵比須町・宝町地区」「山内ふ頭周辺地区」の3地域については、リーディングプランを策定しました。地区ごとの特性を把握した上で、京浜臨海部全体を通した将来像の実現につなげています。

1年以上の長い時間をかけて検討し改定内容をまとめたマスタープランの冊子は、全体コンセプト、地区の現状、立地の優位性などが端的に纏められ、絵や図も多くて分かりやすいと好評をいただいています。

マスタープランの実現には官民一体となることが重要

京浜臨海部では、立地企業による組織体制の構築にも力を入れています。弊社が立地する末広町地区においても「地元である自分たちの声もぜひ反映させたい」と立地企業が集まり、何度も会合を重ねました。会合には横浜市も参加され、企業の声に耳を傾けていただいたことで、自分たちの意見が反映されたマスタープランになったことは、とても感謝しています。今後は、実現に向けて、具体的に動いていくことが重要です。プランの内容は単独企業ではできないことも多く、今後も官民一体となり進めていく必要があると思っています。



京浜臨海部活性化協議会 会長
JFE エンジニアリング株式会社 専務執行役員
松川 裕二氏

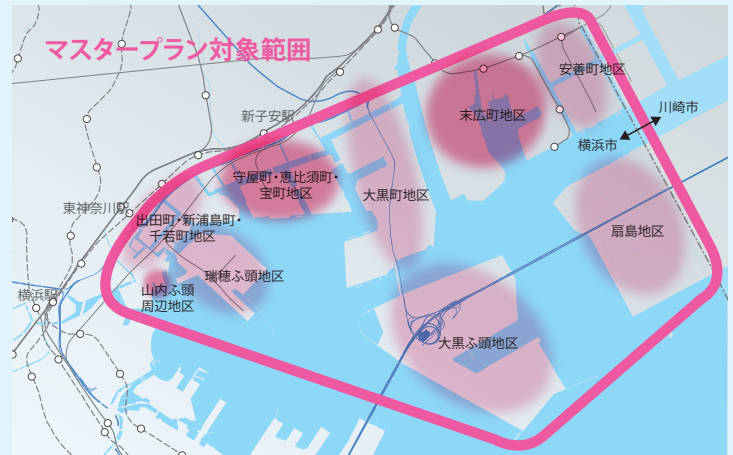
京浜臨海部のメリット

京浜臨海部は港や高速道路が近接し、首都圏や空港にもアクセスしやすい立地であり、大きなメリットがある地域といえます。水際線に高機能なバースを保有している企業もあり、今後の活用が考えられます。

今後、日本の総人口が減少する一方で、首都圏の一極集中は変わらないと考え、首都圏に近い京浜臨海部は人材確保の点でも将来的にわたり優位性があると考えています。

日本のものづくり発祥の地として

日本のものづくりを支えていくという京浜臨海部としての大きな役割はこの先も変わらないと思っています。日本のものづくりはこの地域からはじまっており、「今後もこの地でものづくりを続けていく」と断言する企業の声も沢山聞かれています。そう考えると、今後の京浜臨海部はものづくりを基盤とし、それに付随する機能が集積していくような流れになると考えられます。近隣企業とも協力、連携し合い、さらに賑わいのある京浜臨海部に発展していくことを目指して地域を盛り上げていきたいと思っています。



JFEエンジニアリング株式会社

生活と産業を支えるエンジニアリング企業

弊社は、100年以上前に横浜で創業した浅野造船所をルーツに持つNKK(日本鋼管)と川崎製鉄との経営統合により、両社が培ってきた造船技術、製鉄技術を継承し誕生しました。

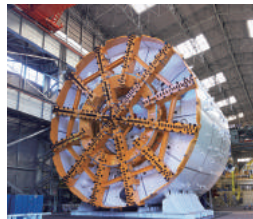
「くらしの礎を創る」「くらしの礎を担う」をコンセプトに、人々の生活と産業を支えるインフラ構築・運営を主としたエンジニアリング企業です。

ものづくりのノウハウが強みの源泉

ものづくりの経験やプラントの運営ノウハウを活かし、生活に近い部分のインフラに関するさまざまな分野の事業を自社で行えることが特長です。

今までは「創る」をメインに「設計・調達・建設」の事業を行っていましたが、今後は修繕工事などのメンテナンス、下水等のプラント施設管理、電力などのエネルギー供給、プラスチックや食品を含む幅広い物資のリサイクルなど、「担う」事業をさらに力を入れて発展させていきたいと思っています。

京浜臨海部が発祥の地ということもあり、地域全体で盛り上げ、安心、安全な生活環境、快適な暮らしを創造していきます。



鶴見区内の同社工場で製造されている
トンネル掘削用シールドマシン



1つのまちづくりができそうなほど、多岐にわたった事業を展開

JFEエンジニアリング株式会社 横浜本社

〒230-8611 横浜市鶴見区末広町 2-1
TEL 045-505-7435 FAX 045-505-8902
<http://www.jfe-eng.co.jp/>

